

所 報

たまじむ

平成 23 年 2 月 2 日

第 3 号

東京都多摩教育事務所

〔東京都立川市錦町 6-3-1〕

Tel 042-524-7137

Fax 042-528-0985

コミュニケーションの充実を図る教育活動の推進

「別に」「ビミョー」「ヤバくね～」「マジで」などの言葉が、子供たちの会話で使われていることをよく見かけます。自分の感情や思いをうまく表現できない、他者の感情や思いをうまく理解できないといった子供たちのコミュニケーションを図る上での課題が見られることもあります。他者とのコミュニケーションを充実させることは、自分自身の考えを明確にして表現することや他者を理解し他者と意見を共有し、互いの考えを深めていくことにつながります。

一方、「全国学力・学習状況調査」では、毎年、家庭内でのコミュニケーションの実態について調査を行っていますが、特に平成20年度では、得点との相関関係について、右図のような結果が報告されています。

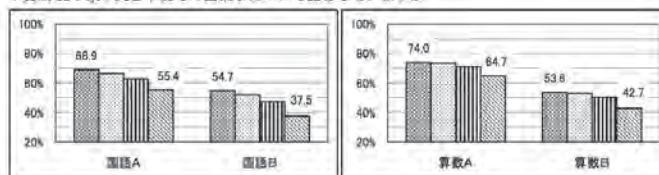
「家の人と学校での出来事について話をしていますか」という質問に対して、「している」と回答した児童の方が「していない」と回答した児童よりも正答率が高い傾向が見られます。コミュニケーションを通して、人間関係を築いていくことは、家庭生活はもちろん、学校生活や社会生活を円滑に生きるために大切なことです。

学校においては、教室の日ごろからのコミュニケーションを充実させることにより、協同的関係を築き、集団としての学習力を高めていくことが求められます。「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かし、児童・生徒一人一人を成長させるという視点に立って、教育活動を推進していくことが極めて重要です。

○ 家の人と学校での出来事について話をしている児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない
■ 全くしていない

※質問 22：家の人と学校での出来事について話をしていますか



「平成20年度 全国学力・学習状況調査結果」
(文部科学省初等中等教育局学力調査室ほか)

目 次

【巻頭言】 コミュニケーションの充実を図る教育活動の推進	1
【特 集】 協同的な関係を築き、集団としての学習力を高めるために	2～3
【研 修】 読書活動の推進に向けた教育活動の展開	4～5
【研 修】 夢や希望をはぐくむキャリア教育に向けて	6～7
【情 報】 東京都多摩地区教育推進委員会報告会の開催	8

協同的な関係を築き、集団としての学習力を

教室内のコミュニケーションを充実させることにより、教員と児童・生徒、児童・生徒同士の協同的な手の発言をしっかりと聞き取り、受け止めること、状況に応じて的確に返すことを含めて、すべての児童

授業におけるコミュニケーションを豊かにする

意見交流などを通して、互いの考えを理解し合う中で、自分の考えを深め、表現を工夫しながら対話をしていくコミュニケーションを充実させることが大切です。

コミュニケーションの場を意図的・計画的に設定する

- 各教科等のねらいを達成するために
- 有効な場面の設定（学習過程 等）
 - 適切な時間の設定（時間、回数 等）
 - 効果的な集団の編成（人数、課題別 等）



各教科等のねらい

コミュニケーションの題材を工夫する

- 身近な題材
- 多様な考えを引き出す題材
- 目的意識をもちやすい題材
- 体験したことを基にした題材
- 知的好奇心を喚起する題材

コミュニケーションの形態を工夫する

- 自分の考えを明確にする（自分との対話）
- ペアや小グループによる話し合い
- 学級全体の話し合い
- 討論形式の活用
- プレゼンテーション形式の活用

指導のポイント

【授業前】

- 一人一人の子供の声を授業改善に生かす。
- 一人一人の子供の活躍をイメージして授業を計画する。

【授業開始時】

- 一人一人の子供を十分に観察する。
- 適切な授業開始の場をつくる。

【授業時】

- 授業への興味・関心を高める。
- 子供全員が授業に参加できるような説明、発問、指示などを工夫する。

- 子供一人一人の発言を十分に聞く。
- 子供の発言をつなげるようにする。
- 子供の立場に立った板書を行う。
- 子供一人一人に合った働きかけを行う。

【終了時】

- 子供の視点で授業を振り返る。
- 授業時刻を厳守し、時間を守る大切さを指導する。

【授業後】

- 一人一人に応じた個別指導を行う。
- 次の授業に生きる記録を作成する。

協同的な関係を築き、集団としての

〈参考資料〉 「言語力育成協力者会議（第 8 回）配付資料〔資料 5〕」文部科学省
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」中央教育審議会答申 平成 20
「人権教育に関する研究—児童・生徒の望ましい人間関係の育成を図るための学級集団の発達段階に応じた指導法の在
東京都教職員研修センター 平成 19 年 3 月

高めるために～コミュニケーションの充実を通して～

関係がはぐくまれ、集団としての学習力を高めることができると考えます。そのためにも、日ごろから相手が授業やコミュニケーションに参加し、互いに理解し合えるような配慮が求められます。

日ごろからのコミュニケーションを豊かにする

日常のコミュニケーションから協同的な関係を築くように努めることが大切です。

教員と児童・生徒との人間関係を確立する

- 児童・生徒が安心して学習や生活ができる環境をつくる。
- 児童・生徒と共に考え、悩み、感動を共有していくという姿勢を大切にする。



児童・生徒相互の人間関係を確立する

- 相手のよさを見付けようと努める。
- 相手の立場に立って考える。
- 互いに協力し合い、主体的によりよい人間関係を築き合う。

学級集団の発達段階を踏まえた上で、児童・生徒の人間関係を築くことが大切です。

学級集団の発達段階とは…

- ① 仲間とのかかわりへの期待
自分の考え方や行動に不安を感じ、他へ依存しながら、周りとかかわりをもとうとしている。
- ② 気の合う仲間とのかかわり
行動の仕方や好み等、気の合う仲間とグループをつくり、行動を共にする中で、仲間意識を強くしている。
- ③ 異なる考え方の仲間とのかかわり
係や当番等、活動の目的をもった小集団を学級の話合いを通してつくり、その活動の中で人間関係を広げている。
- ④ 学級全体の仲間とのかかわり
学級担任の指導を基に、自分たちの生活から学級の問題を発見し、主体的に解決しようとしている。
- ⑤ 学級全体への積極的なかかわり
学級の問題を発見し、その問題の原因や本質に気付き、充実した学級にするために積極的に取り組もうとしている。



学習力の向上へ

コミュニケーションとは…

語源はラテン語のCommunis。「共通の」「共有の」という意味をもちます。コミュニケーションに相当する和語はなく、長い間「伝達」と訳されてきました。

コミュニケーションとは、端的に言うと、意味や感情をやりとりする行為と言えるでしょう。情報を伝達するだけでなく、感情を伝え合い分かり合うこともコミュニケーションの重要な役割です。

コミュニケーションには「言語」によるもの、「非言語」によるものがありますが、今回は前者を取り上げます。

〈授業力向上シリーズ 3〉

読書活動の推進に向

新学習指導要領においては、各教科等を通じて児童・生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点からととしています。その中でも読書は、児童・生徒の知的好奇心を増進し、人間形成や情操を養う上で重要な役割を果たしています。今回は、学校の教育活動全体における読書活動を充実させるため、読書活動の広がりと日常的に取り組む

教育活動全体におけ



学校図書館や教室で…
(日常的に取り組む読書指導)

**学校全体で組織的に
取り組む読書活動**

読書の動機付け

読書タイムの設定

読書記録の活用

読書週間・読書月間等の取組

ボランティアによる読み聞かせ

読書したことを生かして

- 国語科で学習した物語文のテーマに関連した図書を読み、自分の意見を立論して**討論や討議**をする。
- 学年や学級全員で同じ本を読み、読み取った内容を基に**意見を述べ**合う。

調べたことを生かして

- 総合的な学習の時間で学習した「**点字**」についての図書や**盲導犬等**に関連した資料を読む。
- 社会科で学習した外国の地理や自然環境について関連した**資料を****読み取り**、理解を深める。

新しい知識にふれて

- ノンフィクションや紀行文、レポート等を読み、世界の情勢について新たな知識を得る。
- ノーベル賞受賞者の研究をまとめた図書を読み、**化学や物理学等**に関心をもつ。

読書の



**読書活
に向け、
や量、開
動等を広
ことが大**



学習・情報センター機能
(学校図書館の機能①)

学校図書館の
計画的な活用

年間指導計画の中
に位置付けた実践

各教科等における
学習活動



けた教育活動の展開

から、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語活動の充実を図ることであり、読書習慣を形成するために、学校・家庭・地域を通じた読書活動の推進を図ることは大切です。心読書指導の在り方や学校図書館の利活用に焦点を当て紹介します。

る読書活動の充実

ジャンルを意識して

- 国語科で学習した「民話」の内容を振り返った後、他の民話を読んだり、調べたりする。
- 社会科で学習した歴史上の人物の「伝記」を読み、生い立ちや業績について関心をもつ。

広が



動の充実
読書の質
連した活
げていく
切です。

作者を意識して

- 国語科で学習した作品と同じ**作者**の本を読む。
- シリーズもの（同じ**作者**や似ている内容等）の作品を関連付けながら読む。

身の回りのことから

- 総合的な学習の時間で学習した地域の**伝統・文化**にかかわる資料を読み、地域についての理解を深める。
- 理科で学習した**天候や四季**の移りかわり、**動植物等**、身近な事象に関する図書や図鑑、資料を読む。



家庭や地域、公共施設で… (日常的に取り組む読書指導)

家庭や関係機関と連携して 取り組む読書活動

家庭における読書の定着促進

公立図書館との連携・協力

博物館や資料館等の利用の促進

児童・生徒の
望ましい読書習慣の形成



読書センター機能 (学校図書館の機能②)

図書や関係資料等の購入や整備

ゆとりある快適なスペースの確保

読書に適した環境の整備 等

〈健全育成シリーズ 3〉

夢や希望をはぐくむ

文部科学省による「平成22年度全国学力・学習状況調査」の質問事項「将来の夢や目標をもっていますか」の夢や希望を膨らませ、自己実現につなげるために、小学校では、自分はこの人間になりたいという自姿勢をはぐくむことが大切です。

そこで、今回は特に、義務教育9年間を通じた将来設計能力の育成に焦点を当て、指導のポイントにつ

将来設計能力

夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。

【役割把握・認識能力】

生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力

発達段階に応じた

【小学校におけるキャリア教育の目標】

- 自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成



自分を知り、 なりたい自分へ

小学校低学年

- ・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。

指導のポイント

- ◆ みんなのために働く経験を通して、働くことへの関心を高める。

- (例) 生活科1年「お手伝い」
- お手伝いの方法やコツをゲストティーチャーから学ぶ。
 - お手伝いの取り組み方やコツを教え合う。
 - 家庭での児童の実践を励まし支援する。

家族の笑顔やありがとうの言葉などから、みんなのために働く喜びを感じ取ることが大切です。

小学校中学年

- ・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。
- ・日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。

指導のポイント

- ◆ 地域の人との協働的な体験活動を多く取り入れ、いろいろな職業や生き方が分かるようにする。

- (例) 社会科3年「地域で働く人々」
- 地域で働く人々の工夫や努力、思いなどを取材する。
 - 調べたことを基に紹介新聞を作成し、働く人々の思いや願いを考える。
 - 地域には様々な職業があることに気付く。

インタビュー体験を通して直接触れ合い、仕事への生きがいや誇りを感じ取ることが大切です。

学校と社会
発達段階

キャリア教育に向けて

では、発達段階が上がるにつれ「当てはまる」と回答する割合が減少しています。将来の生き方や職業へ已イメージを獲得させ、中学校では、自らの将来につながる希望や目標を描かせ、それに向けて努力する

いて紹介します。

キャリア教育の推進

【中学校におけるキャリア教育の目標】

- 肯定的自己理解と自己有用感の獲得
- 興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成
- 進路計画の立案と暫定的選択
- 生き方や進路に関する現実的探索

夢の実現に向けて

小学校高学年

- ・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。
- ・仕事における役割の関連性や変化に気付く。

指導のポイント

- ◆ 体験活動を通し、実感を伴って勤労や職業に関する理解を深める。

- (例) 社会科5年「日本の農業・工業」
- 働く人の工夫や努力、思いや願いについて考え、調べる。
 - 観察や調査・見学、体験などによって分かったことや考えたことなどを表現する。

生産、輸送、販売、開発など、様々な仕事に関連し合って自分たちの生活を支えていることに気付くことが大切です。

中学校

- ・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。
- ・日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。
- ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。

指導のポイント

- ◆ 今の学習が将来どのように役立つのかという発見や自覚をさせる。

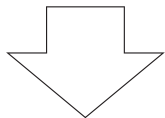
- (例) 総合的な学習の時間「職場体験」
- 将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方について考える。
 - 職場体験活動のねらいを理解し、自分の課題を明らかにする。
 - 職場体験活動を行う。
 - 活動を振り返り、その意義を考え、学びを共有する。

自分なりの将来像を実現するために何をすべきかなどについて具体的に考えることが大切です。

とのつながりを深め、
階に応じて系統的に学んでいくことで、子供たちの将来の夢や希望をはぐくみます。

東京都多摩地区教育推進委員会報告会の開催

中央教育審議会答申 学力の重要な3つの要素



- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ・知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
- ・学習意欲

－研究主題－ 学力の重要な要素「学習意欲」の向上を目指す教育活動の展開 －児童・生徒の学習意欲を高めるために－

「学習意欲」は学力の重要な要素の一つとして明確に示されました。児童・生徒の学習意欲を高めるためには、分かる授業の展開や学習習慣の確立が重要です。学校における学習意欲の向上や学習習慣の確立に向けた教師の指導力の向上などについて、実践事例を挙げながら提言を行います。

平成22年度 東京都多摩地区教育推進委員会委員

委員長 海東 元治（調布市教育委員会教育長）

副委員長 前島 正明（西東京市教育委員会指導課長）

委 員

【授業改善小学校部会】

部会長 大谷 憲司（立川市立第三小学校副校長）

委 員 平田 勇治（調布市立北ノ台小学校主任教諭）

委 員 田邊 洋子（東大和市立第八小学校教諭）

委 員 大藏 久美（国立市立国立第三小学校主任教諭）

委 員 岩月 太郎（福生市立福生第三小学校教諭）

【授業改善中学校部会】

部会長 神谷 出（西東京市立けやき小学校副校長）

委 員 小沢 進（立川市立立川第五中学校主幹教諭）

委 員 高橋 優子（東大和市立第三中学校主任教諭）

委 員 岩崎 浩示（小平市立上水中学校主幹教諭）

委 員 富室 直美（狛江市立狛江第三中学校教諭）

【学習習慣小学校部会】

部会長 仙北谷仁策（八王子市立横山第二小学校副校長）

委 員 富川 克子（町田市立三輪小学校主幹教諭）

委 員 泉 浩子（東久留米市立第三小学校教諭）

委 員 野口 直也（三鷹市立中原小学校主任教諭）

委 員 佐藤由美子（羽村市立羽村西小学校教諭）

【学習習慣中学校部会】

部会長 山下 久也（府中市立府中第三中学校副校長）

委 員 小島 千恵（府中市立府中第八中学校主幹教諭）

委 員 横林 泰介（清瀬市立清瀬第五中学校主幹教諭）

委 員 榎戸千代子（あきる野市立秋多中学校主幹教諭）

委 員 相沢 秀和（昭島市立瑞雲中学校主任教諭）

報 告 会

- 1 日 時 平成23年2月10日（木）14時から16時30分まで（開場13時30分）
- 2 場 所 多摩教育センターホール
- 3 報告内容 ○ 研究の概要 ○ 各部会の報告
○ 講評 安彦 忠彦 先生（早稲田大学教育学部 教授）
- 4 対 象 者 公立・私立学校の管理職、主幹教諭、主任教諭、教諭（研究主任、2・3・4年次研修、10年経験者研修等の該当者など）、大学関係者、研究機関関係者、教育行政関係者など
- 5 申込方法 各小・中学校の先生方は、市町村教育委員会を通してお申込みください。